

みどりをはぐくみエコロジカルネットワークを形成する

〔将来像〕

地域の特性を活かしながらかつくりてきた公園や緑道、土地の歴史や文化を守り今に伝える鎮守の森や屋敷林、小さくとも工夫を凝らしながらはぐくまれた庭や街かどの花壇等、まちなかにはさまざまなみどりがあふれています。

その中には、野鳥をはじめとするさまざまないきものが生息しています。いきものたちは、みどりの拠点から、まちなかに散在する小さなみどりがつながりあって形成されたみどりのネットワークを通じ、わたしたち一人ひとりの足元まで訪れ、人と自然が共生する暮らしを大切にします。

〔取組方針〕

こうした将来像を目標に、みどりの拠点となる公共施設等の緑地の保全、公園や緑道の整備、道路、河川沿川の緑化を進めるとともに、区民、事業者と協働して住宅地をはじめとする民有地の身近なみどりの保全や創出、育成に取り組み、まちに点在する樹林地や公園から住宅の庭までつながるエコロジカルネットワークを形成します。



(イラストはイメージです)

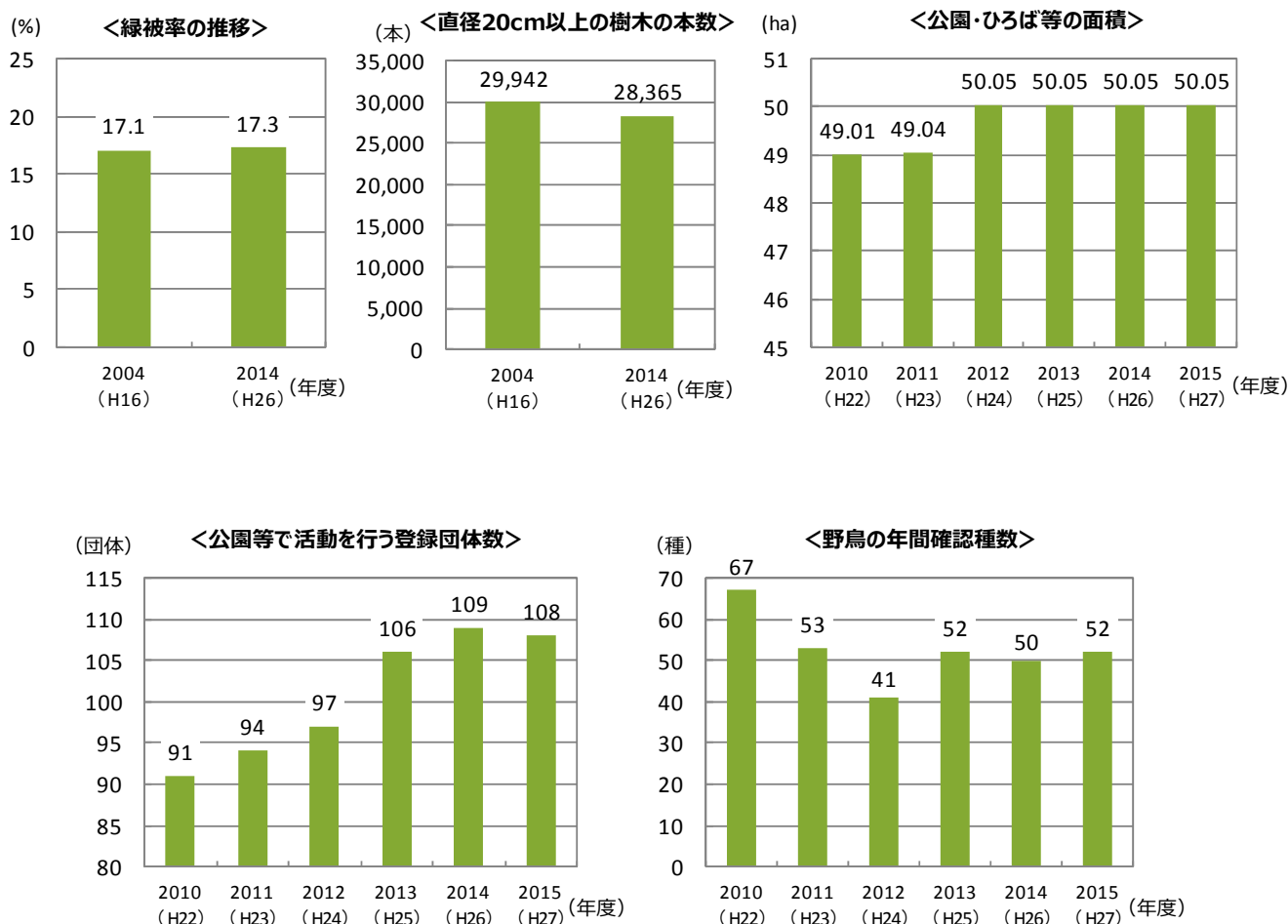
〔課題と方向性〕

まちのみどりは、近年、公園の新設・拡張整備、目黒川沿川や公園、緑道等の樹木の成長等により増加する一方で、主にマンション建設や宅地開発、小規模住宅地の樹木の伐採等により民有地で減少しています。

公園・ひろば等の面積（２０１５（平成２７）年度）は、公園の新設・拡張により５０．０５haであり、２０１０（平成２２）年度から１．０４ha増加しています。また、清掃や花壇管理・雑木林の育成等、公園を保全する活動や、イベント等を企画運営して公園の利用を促進する活動を行うボランティア団体の登録数も増加しています。

いきものに関しては、指標在来生物種の分布率*（２０１５（平成２７）年度）が４３％となり、増加しています。また、野鳥の年間確認種数は概ね５０種を上回る状態が継続しています。さらに、区民参加により生物調査等を行う、いきもの気象台*の情報提供、いきもの発見隊*等の取組も進んでいます。

みどり豊かな生活環境の確保、生物多様性の確保の観点から、みどりの保全と創出を通じてエコロジカルネットワークの形成を推進していくことが必要です。また、みどりや生物多様性に対する区民意識の醸成や、みどりに関わる活動における区民協働を更に推進していくことも重要です。



〔「施策の目標」設定にあたっての考え方〕

- ・エコロジカルネットワークの形成を推進していく観点から、拠点となるみどりの保全と創出、住宅地（民地）等の身近なみどりの保全と創出に分けて施策を設定します。
- ・「目黒区生物多様性地域戦略」を踏まえ、前計画に引き続き「都市の生物多様性の確保」を施策として設定します。

〔指標〕

◎ 成果指標

区分	項目（例）	目標
基本方針	みどり豊かで魅力的なまちであると 感じる人の割合※	増加

※：環境に関するアンケート調査で測定する項目

◎ 取組点検項目

区分	項目（例）	目標（方向）
施策の目標 3-1	公園・ひろば等の面積	増加
施策の目標 3-2	保存樹木*本数・保存樹林面積（☆）	増加
	屋上緑化・壁面緑化面積・接道部緑化延長（☆）	増加
施策の目標 3-3	いきもの气象台情報提供数（1～12月）（☆）	増加
	野鳥の年間確認種数（☆）	増加 ^{注）}

注）50種を維持し、70種を目指す

（☆）：重点的に取り組むテーマに係る取組



目黒川いきもの発見隊

施策の目標 3-1 拠点となるみどりの保全と創出

◇施策の進め方

公園・緑地等のまとまったみどりは、いきものの大切な生息場所となるとともに、樹木による二酸化炭素の吸収、クールアイランド*の形成、区民が自然とふれあえる場の提供等、さまざまな役割を担っています。

大規模な公園・緑地を中心にその周辺の住宅・事業所等のみどりを含んだ「めぐろの森*」をはじめ、公園、公共施設等のみどり等、エコロジカルネットワークの拠点となるみどりの保全と創出を進めていきます。

◇主な施策

●公園・緑地の確保と質の向上

公園・緑地の不足する地域を中心に、立体都市公園*や借地公園*等の多様な手法による整備の検討を進め、子どもから高齢者までが遊び・憩える公園・緑地の確保に努めていきます。

また、公園等の整備・改良に合わせ、子どもの成長の場や、心身の健康をはぐくむ場として活用できるよう、安全・安心な公園づくりを目指すとともに、生物多様性に配慮したみどりの整備を行い、暮らしに潤いを与えるみどりの拠点整備に努めていきます。

公園等の管理において、住民ボランティアと協力して花壇、雑木林、土壌、生物の生息しやすい環境づくりを行い、質の高い公園等を維持していきます。

●めぐろの森におけるみどりの保全・創出

大規模な公園・緑地を核とするみどりの拠点となる「めぐろの森」について、公園等の公共施設等にある 300 ㎡以上の既存樹林をエコロジカルネットワークの拠点として生物多様性保全林に指定します。

●公共施設における緑化の推進

公共施設が、民間施設（住宅・業務ビル等）の緑化のモデルとなるよう、敷地や屋上等の積極的な緑化を推進します。

●サクラの保全（新規）

目黒区のシンボルの一つである区内のサクラの保全について、サクラ基金を活用し、計画的に進めます。



菅刈公園

施策の目標 3-2 身近なみどりの保全と創出

◇施策の進め方

公園整備や街路樹等の樹木の成長等によってみどりが増える一方で、建築行為等によって民有地を中心に樹木や小規模な樹林が減っています。

このため、住宅地や社寺等の民有地においてみどりの保全を進めるとともに、開発や建築物の建替えに際したみどりの確保、建物の緑化を推進し、身近なみどりを創出します。

また、みどりを育てる区民、事業者を増やしていくため、みどりの大切さの普及啓発を図るとともに、身近なみどりとふれあいやみどりを育てる活動への支援を進めていきます。

◇主な施策

●住宅地のみどりの保全

住宅地のみどりの保全を進めるため、みどりの条例に基づく保存樹木等や重点的に緑化が必要な地域の指定を進めるほか、都市緑地法の手法（市民緑地制度、特別緑地保全地区）の活用等の検討を進めます。

●民有建物における緑化の推進・支援

みどりのまちなみ助成制度*を活用し、民有建物における緑化（屋上、壁面、接道部等）を支援します。

●開発・建築行為の際のみどりの確保

開発許可制度や緑化計画制度に基づき、大規模な開発や一定規模以上の建築行為等の際に緑化を推進し、みどりの連続性の確保を図ります。

●みどりの大切さの普及啓発

多くの区民が、みどりの現状と大切さに気づき、身近なみどりの育成に親しみや関心をもって取り組めるよう、普及啓発を行います。

●みどりやいきものとふれあう体験の提供

都会では味わう機会の少ない農業体験や、自然体験教室等を通じて、みどりやいきものとふれあう原体験の機会を積極的につくります。

●みどりを育てる区民等への活動支援

みどりを育てる団体や個人の活動へ支援を行います。

施策の目標 3-3 都市の生物多様性の確保

◇施策の進め方

「生物多様性」とは、さまざまな自然があり、そこに特有の個性を持ついきものがいて、それぞれの命がつながりあっていることをいいます。わたしたちの暮らしは、生物多様性の恵みによって成り立っていますが、開発や消費活動等により、地球規模で生物多様性が急速に衰退しています。

区内の身近な場所にもさまざまないきものが生息していますが、樹木本数が減少するなど自然環境の変化も進んでいます。

身近な自然を守り、いきものたちと共に暮らせるまちを未来に伝えていくため、「目黒区生物多様性地域戦略」を推進し、区民、事業者とともに、いきもの情報の蓄積と発信、ビオトープ*の育成とネットワーク化等に取り組んでいきます。

また、外来生物の取扱い「入れない、捨てない、拡（ひろ）げない」について、普及啓発していきます。

◇主な施策

●みどりやいきものの実態の把握といきもの情報の共有と発信

調査を定期的・継続的に行うことで、区内のみどりやいきものについての実態や変化を把握します。また、いきものに関心をもってもらえるように、これまで蓄積したいきもの情報をわかりやすくホームページ等で情報発信するとともに、調査結果を総合的に集計解析し、生物多様性の確保を目指したまちづくりを区民とともに実践します。

●生物多様性地域戦略の推進（新規）

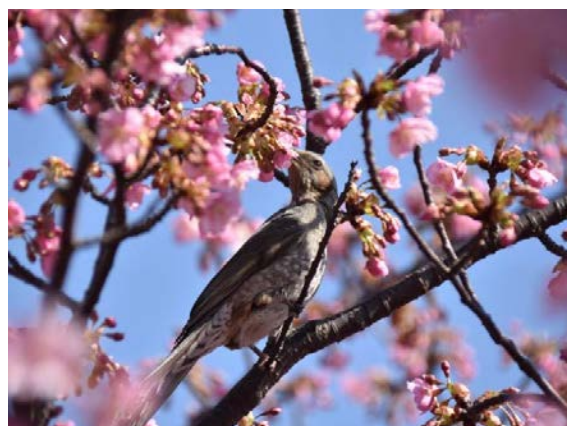
区の生物多様性確保の将来ビジョンとして策定した「目黒区生物多様性地域戦略 ささえあう^{いのち}生命の輪^わ 野鳥のすめるまちづくり計画」を推進します。

●ビオトープの育成によるいきものの道の形成

学校や公園等のビオトープと民有地のみどりをつなげていきものの道を形成し、身近なみどりの質の向上を図ります。

●生物多様性に配慮した公園・緑地等の管理

一定のまとまった規模の自然が残る公園や公共施設等において、生物多様性に配慮した管理方針を検討し、普及します。



公園等でみられる野鳥